

所長だより第58号 平成30年6月13日

# 希望の船

We love BIWAKO

「みずうみに学んで世界の明日をひらく人」

滋賀県立びわ湖フローティングスクール  
〒520-0047 大津市浜大津5丁目1番7号  
<https://www.uminoko.jp/>

## 新「うみのこ」いよいよ出航

【所長 小野澤 稔香】



6月4日（月）、澄み渡った青空のもと、2代目学習船「うみのこ」が大津市立瀬田南小学校、膳所小学校の子どもたち133名を乗せて大津港から出航し、今年度、全102回の児童学習航海がスタートしました。本来は、5月9日出航の予定でしたが、建造が遅れ一ヶ月先延ばしとなっていました。関係者の皆様に、御迷惑・御心配をおかけしましたこと、改めて深くお詫び申し上げます。

今年度の「湖の子」出航式には、三日月大造滋賀県知事、川島隆二滋賀県議会議長様、青木洋県教育長をはじめ、多くの皆様方に御臨席をいただきました。たくさんの方に見送られ、新「うみのこ」が湖面をすべるように出航していく姿を見て胸が熱くなりました。新船は、今後20年、30年と、子どもたちの笑顔と夢を載せて琵琶湖の上を進んでくれることでしょう。

フローティングスクール開校から36年目となる今年度は、児童学習航海102航海（琵琶湖に学ぶ小学生交流航海6航海を含む）の他に、県外の方にも乗船いただく親子体験航海や、航海当日乗船できなかった子どもたちを対象とした「湖の子」体験航海、教職員研修航海も実施します。

さて、新「うみのこ」には、驚くほど沢山のプランクトンを鮮明に見ることのできるデジタル顕微鏡、学習ツールとしてまた思考・交流ツールとしても使えるタブレットPC、湖底の様子を観察できる水中カメラ等、新しい学習備品が多数導入されました。子どもたちが、それぞれのテーマに沿って、主体的に・探求的に学びを深められるよう、当所からは、琵琶湖との新しい出会い方を提案させていただきます。もちろん従来からの、びわ湖展望、寄港地でのウォークラリー、同時乗船校との交流活動等、そして船内生活そのものも、子どもたちにとっては大きな学びの場となるはずです。

かつては、所員や乗船校の先生方が用意した様々な学習プログラムを、子どもたちが順番に体験していく「受け身の学習」が多かったように思います。これからは、子どもたちが学習を選んだり、その活動にかかる時間を自分で配分したりする「主体的・探求的な学習」を目指した学習づくりを進めます。そのために、乗船までの学習から乗船中、乗船後の学習までを通した指導計画を、乗船校の先生方とともに研究していきます。

「みずうみに学んで世界の明日をひらく人」これは、びわ湖フローティングスクールの理念です。一連の学習を終えたとき、学んだことを自分の生活と結びつけて考え、様々な方法で思いを伝え、自分のできることから行動する子どもの育成を目指して、所員一同頑張っ参ります。新しい学習船「うみのこ」、新しい「フローティングスクール学習」に、ご期待ください。